

## 大東まちづくり研究会・活動状況

### 1、はじめに

私たち住民の多くが、日ごろの生活の中で不満に思ったり不安を感じたりするのは『身近な出来事や自分の利害』といった自分自身が直接に五感で感じたり理解する状況の中で発生します。また一方では実効性と即効性のある地域づくり活動も小地域など身近な地域から発生していることも事実です。

1980年代以降、行政が解決システムや責任の全てを担当しながら運営されてきた社会で、住民自身も「何事も行政がしてくれる」式の意識に犯された状況が存在しました。そうした仕組みは長い歴史の中で、一時期の極めて突出したものであることも明らかです。

私たちは、住民として相互扶助や自立、自己責任、受益者負担など自己周辺での完結システムが基本的な住民の姿勢として底流にあり、歴史的にも普遍的な真理ではないかと考えています。

われわれ大東まちづくり研究会が受け持つ実践活動のコンセプトは『住民にできること』からはじめて『住民だからできること・住民にしかできないこと』へと実践を拡大することとしています。行政や団体など大きな組織ではできないことを住民の立場で実践することが役割のひとつと考えています。

### 2、活動の方向

本会会員がリーダーとして、まちづくり活動の先頭に立って推進するためには会員自身の自覚と資質の向上が不可欠であるとの考えから、毎月の定例会での勉強会を行っています。発会当初は都市計画マスタープランの分析などを中心に進めてきました。

そして若干のタイムラグを設けて住民意識の醸成を行うためのイベントを実施しました。『どげする大東・話さや大東』『どげする大東歩かや大東』など一連の『どげする』シリーズといわれるイベントの開催でした。

われわれ大東まちづくり研究会が取り組んでいる定住対策や中心市街地の活性化、都市計画の諸問題など基本的には行政の仕事であると考えています。また、それらの問題解決にあたっては行政や機関等が業務として行政手続やマニュアルに基づいて実施すれば、当然一定の体裁を整えた成果を示されることも認識しています。われわれは、そうしたことを踏まえて『住民だからできること・住民にしかできないこと』の実践が即ち住民の役割分担であり、官民協働の始まりであると考えています。

### 3、おもな活動内容

#### (1)『どげする』シリーズ

##### どげする大東・話さや大東

住民意識の醸成を目的として地域住民に呼びかけてワークショップを行い、まちの現状と問題点の掘り起こしを行いました。

##### どげする大東・歩かや大東

参加者など意識の共有を持つことを目的として前回の参加者やそのほかの住民に呼びかけてワークショップを行い、地域の道路や川、里山など実際に歩いて触れて現状と問題点の掘り起こしを行いました。

##### どげする中学・活かさや校舎

廃校となった大東中学校校舎が地域に不可欠な施設であり、再利用可能であるとの意識付けを目的として行い、旧通産省からはインキュベーションの立場から参加を得たり、帰省した卒業生の見学会など多彩なイベントを1週間かけて実施しました。

その後提案が受け入れられて『大東まちづくり役場』の開設となりました。

#### (2)定住基礎調査

定住のための条件整備を念頭に受け入れ側と移住側双方に対してデータベースとなる調査(アンケート方式)を実施しました。

- 受け入れ側調査 : 空き家、空き地調査
- : 貸家ストック調査
- : 公民館調査及び資料提供の依頼
- 移住側の調査 : 近畿大東会 U ターン調査
- : 住民の知人等 U ターン調査
- : 都市住民 I ターン調査
- : インターネットによる調査

#### (3)定住のための公営住宅提案

公営住宅の建設を希望する地域や可能性のある地域と連携し、地域の特徴、条件、自然、就労等々ヒアリングを行い周辺一帯の計画および施設の平面計画を作成し、地域に提案を行いました。

地域から行政に陳情されて順次実現した計画なども出ています。

- 海潮地区振興会 : 地域とともにある公共住宅の実現
- 春殖地区振興会 : 自然が語りかける公営住宅の実現

(4) 定住促進：定住支援センター受託運営

大東町では、平成15年度から定住事業の一環として定住支援センターの設立がされました。(他町村では定住相談員)

定住調査や提案(上記)など実績のある当会が業務委託を受けることとなりました。

(5) 市街地活性化活動

各地で中心市街地の荒廃が叫ばれています。大東町でも例外ではありません。行政や商工会などの機関においても対策の検討や計画が策定されていますが、実効がないのが現状のようです。

チャレンジショップ

地域の消費者、販売者、生産者が一体となって考え、双方のニーズを確認し、また新製品開発などを目的として空き店舗を利用した『チャレンジショップ・じねんにいきましょ屋』を開店しました。

店は毎週土曜日に開店し、会員が交代で勤務し、地域の産物販売や販売店の紹介、生産者の紹介など約1年間で3箇所の空き店舗を移動しながら行いました。

木工製品、木炭、竹炭、米製品など新製品が生まれました。

店舗改装などの支援依頼(設計・施工)がありました。

町並み調査・空き店舗調査

チャレンジショップ開店にあわせ、周辺部の空き店舗の調査を行いました。

4、今後の課題

(1) 人材の育成

組織の運営やリーダーの育成は極めて重要であります。即効的な方法や手段もなく、どの組織体もが課題としている事項です。

当会でも当初9名であった組織から現在26名となりました、1名の退会者もありませんが、拡大とともに意識の格差が大きくなり、運営にも影響することも考えられます。

今後は、初心に帰り、勉強会などきめ細かな事業展開によって人材の育成を図らねばならないと考えています。

(2) 他組織との連携

今後は、まちづくり活動の実践やまちづくりのリーダーとしての活動を求められる中で、各地域の現状や問題点を「より広く」「より厚く」把握しながら、他地域や多団体との連携をした活動を進めなければならないと考えています。